

富山市立五福小学校 第4学年（特別授業）社会科指導案 授業者 寺本 潔

1 本時のねらい

社会科単元「わたしたちの富山県」の学習の一部として、富山県が置かれている交通の現状とその解決策について仲間と話し合い、バスを中心にした公共交通のよさに気付くことができる。

2 本時の展開

	学習内容	指導上の留意点
導 入	1 「おでかけバス定期券」を見て知っていることを出し合う。 ・富山市内どこからでも中心市街地や市民病院にでかける場合、バス料金が100円に割引。 ・市内在住の65歳以上の高齢者に限定。	・定期券と利用区間の地図の拡大を黒板に貼り、丁寧に定期券のメリットを確認させながら読みとらせる。 ・中心市街地の中で移動する場合でも100円であること、中心市街地から少し離れた市民病院へも利用できることを確認。
展 開	2 定期券利用者の推移を示したグラフを読み取り、順調に伸びている事実を確認する。 3 どうして富山市は「おでかけバス事業」を事業化したのか、そのわけを考え合う。 ・交通弱者である高齢者のため ・中心市街地に人を呼び込むため ・バスに乗る人を増やすため	・高齢者の数が多くその内で女性が多い割合を占めていることを強調し、その理由についても挙げさせる。 ・中心市街地に何の用事で出かけるのか、わざわざバスを利用しなくてはいけない高齢者の置かれている背景に気付かせたい。 ・「100円ではバス会社はもうからないのではないか」とゆさぶりを、市の補助があることを予想させる。
ま と め	4 通勤通学でバスを利用する人の割合の変化を読み取り、考えたことを班で話し合う。 5 「バスや鉄道が減り、車がこんなに多くを占めていくことは本当に（県民一人一人にとって）よいことなのか？」について考え合い、問題点を整理する。 ・交通渋滞や事故が増える。 ・自動車が運転できない人は困る。 ・排気ガスで空気が汚れる。 ・車は維持するのにお金がかかる。	・割合の意味を教師が解説した後、予想以上にバス利用者が減ってきている事実に触れながら、自家用車中心の交通に傾いている富山県（市）の交通問題の傾向をつかませる。 ・「このままでいくと、みんなが65歳になったときに果たして富山ではバスは動いているのだろうか？」と投げかけて自分の問題に引き寄せるように促す。